



勉強が好きになる方法

子どもの時に、勉強の楽しさを知る事は大事ですね。では、その勉強の楽しさは、どうやって知るのでしょくか。色々な人の影響は受けますが、1番始めに勉強への価値観を決めるのは、やはり親の言葉です。親から「勉強、楽しいよ」「勉強って面白いんだよ」というメッセージを受け取った子どもは、勉強が好きになると言ってもいいでしょう。

でも、皆さんの中には「勉強は好きじゃなかった」という人もいらっしゃると思います。私もです。成績優秀な姉がいたので、勉強で褒められた事はなく、苦手意識がありました。でも、本を読むのは好きだったし、そろばんを習っていたので、算数はまあまあでした。皆さんも「理科の実験は面白かった」「歴史は好きだった」「世界の国旗を覚えるのが楽しかった」等何かあると思います。その「好き」「面白い」「楽しい」を子どもに伝えて欲しいのです。

嫌いな教科、不得意な事は言わなくていいので、この教科のここが好きだった、放課後友だちと勉強を教え合った等、勉強に関する楽しかった事を話してあげて下さい。それが勉強へのプラスイメージとなり子どもの中に定着します。

学校の勉強以外の事でもいいのですが、学校の勉強は親子に共通する体験です。「宮沢賢治の『やまなし』覚えてるよ。なんか好きだったな」とか「冗談で言ったのに、小学校の自由研究でゴキブリの研究をする事になってね。始めはいやだったけど、、、」等と具体的に楽しげに語って下さい。そんな親の言葉が、勉強の楽しさを教えることになるのだと思います。

家庭教育支援員 清田智子
菊池市教育委員会 生涯学習課
TEL：25-7232

健やかな心を育てる

健やかな心を育てる 1番のポイントは健やかな体を育てる事です。心と体は繋がっていますので、体の健康と同じく、心の健康の為に食事と運動、睡眠が大切です。

2つ目は、愛情を感じてもらう事です。親が愛情を心に秘めていても、伝わらなければあまり意味はありません。「あのね」と話しかけられた時、スマホやテレビを見ながら「なあに？」と答えて、愛情は伝わるでしょうか？

子どもは親がどこを見ているかをよく見ています。「自分よりスマホの方が好きなんだ」とか「妹にはちゃんと答えるのに、私の事は見てくれない」なんて悲しい勘違いで心が傷つき、弱くなるのです。「愛情を伝える」これは、子どもの心を強くする上で大切な事です。

3つ目は、心が傷ついた時のフォローです。生きている以上、心が傷つかない事はありません。傷ついた時に立ち直る力をつける事が大切です。そう言うとう難しい事のようにですが、心が傷ついた時、悲しみや怒りを共感してもらうだけでも心が癒されます。

「悲しかった」「悔しかった」「腹が立った」という気持ちを否定せずに聞きましょう。ネガティブな感情は出てきて当然です。受け止めてもらえれば、ネガティブな感情は小さくなります。

また、子どもは、言う内容が変わる事があります。聞かれた事だけ話したり、人の話と混ぜたり、大事な事を、言いそびれたりします。うそをついている訳ではなく、事実をわかるように話す事が苦手なのです。そこも踏まえてじっくり話を聞いて下さい。問題は最初の話じゃなかった、という事もたまにありますから。

以上、健やかな心を育てる為の3つのポイントでした。心に留めておいて頂ければ幸いです。